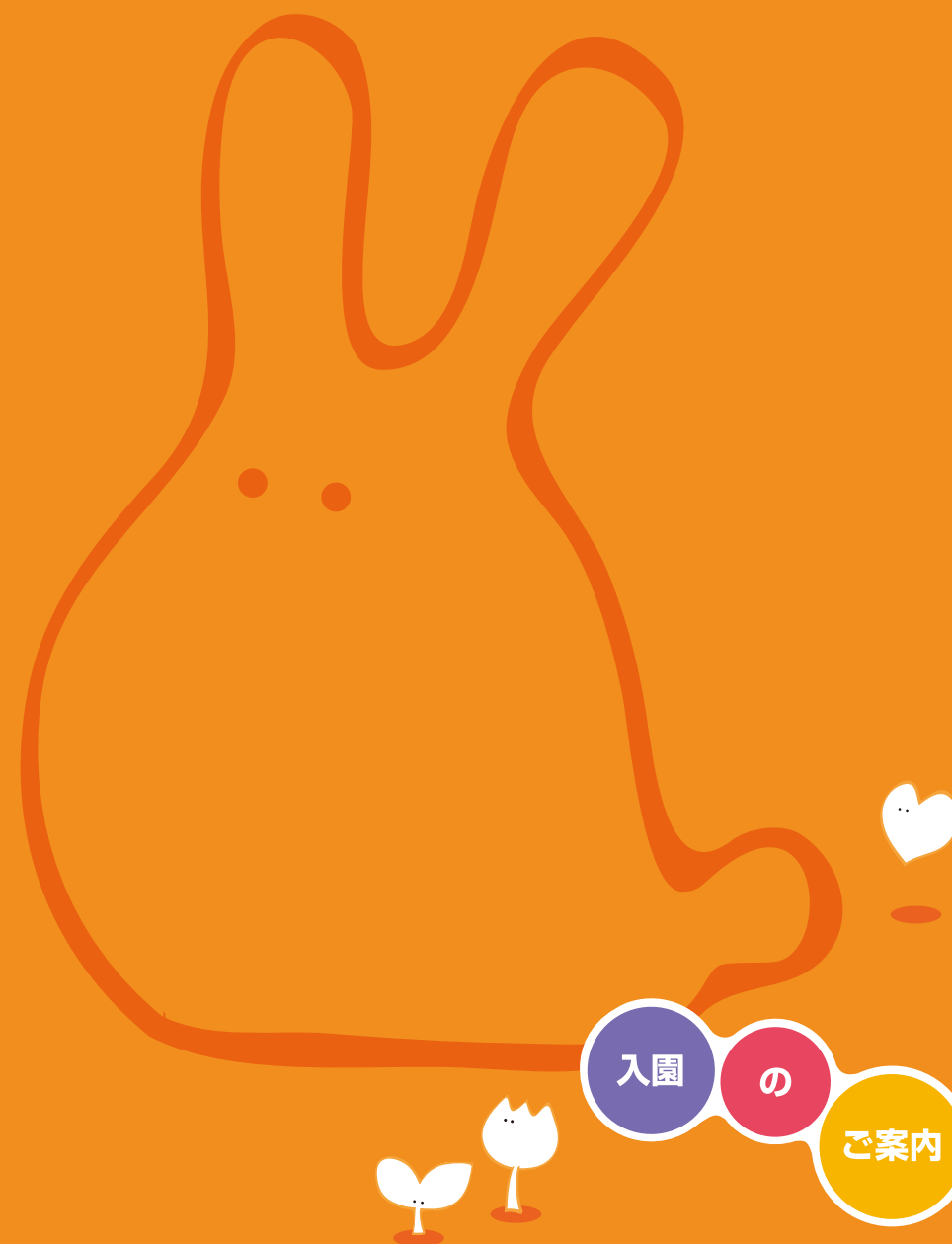




学校法人 いのせ学園
サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園
〒329-0617 栃木県河内郡上三川町上蒲生2111-1
Tel・0285-56-7222 Fax・0285-56-0360
<https://www.sunnyside.yashio.ed.jp>



学校法人 いのせ学園
サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園

SunnySide International SunnySide International



Introduction ごあいさつ

やしお幼稚園の設立は1977年です。

設立当初から大切にしていることは、自然との触れ合いです。

当園には森があり小川があります。動物がいます。

子どもが成長し大人が成長する。豊かな自然がその舞台です。

そこに込められているのは、やがて社会に出ていく子どもたちに
「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」ための土台をしっかり
身につけてほしいという想いです。

もうひとつ大切にしていることに「しつけ」があります。

あいさつ、返事、靴をそろえる、姿勢を正すなど、

基本的生活習慣が一人一人の子どもに身につくよう導いています。

その上で21世紀に生きる子どもたちは世界のなかで力を発揮しなければなりません。

日本語でも英語でも自分を表現できる能力を身につけ、

コミュニケーションを図ることはあたりまえのことになります。

子どもは驚異的な能力ですばやく言葉を習得し、完ぺきなアクセントや表現を身につけてしまいます。

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園では、英語を自由自在に使えることが不可欠となった
現実を踏まえて、子どもたちへの英語教育を行っています。

日本人の心を大切にする真の国際人が、やしおの森から巣立ってくれることを期待しています。

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園
園長 古本裕一

What is Sunnyside Program?

サニーサイドプログラムって？



サニーサイドプログラムは・・・平成13年度より岐阜市の幼稚園で教育改革振興モデル事業として発足し、その教育成果が大きく評価されている日本人教諭と外国人教諭によるチーム保育形式の幼稚園教育で、いのせ学園では平成18年度に開設いたしました。外国人スタッフのみ、また英語のみで保育を行う、「インターナショナルスクール」と呼ばれる施設と違い、文部科学省の指定する日本の「幼稚園教育要領」を基本に教育を行っています。

真の「国際人」を育成したい

「国際化時代」と良く耳にしますが、それでは「国際人」って何だろう？と考える時、それは「英語が話せる＝国際人」ではないと私たちは思います。国際社会において魅力的な人材とは、自国の文化を知り、自国の国民性のすばらしさを兼ね備えた上で、コミュニケーションをとることが出来る社会人ではないでしょうか。サニーサイドでは、教育の目的が「英語を話せるようになること」ではなく、あくまで幼児の育ちの環境として決して偏りのない、バランスのとれた適切な環境であるということを常に重要視しています。

日本人としての育ちを大切に

サニーサイドの最大の特徴はその教育の基本を日本の幼児教育にしているという点です。基本的な生活習慣に始まり、相手を思いやる優しい気持ち、お友達と仲良く関わることの出来る力やどんな遊びにも積極的に参加できる意欲作り、また、日本の昔話や童謡、おもちゃなどの伝統行事など、幼稚園生活の中で子どもに身に付けてほしいこと、体験してほしいことはたくさんあります。真の国際人を育てていくためには、日本人としての育ちや日本の文化にふれる体験も大変重要なことと私たちは考え、保育の中にそれらを出来るだけ多く取り入れ、外国人の先生も一緒にそれを体験しています。詳しくは年間の行事内容をご参照下さい。

生活の中で自然に身に付く英語

挨拶に始まり、「Go get your bag ! カバンをロッカーから出しましょう」「Let's sing a song ! 歌をうたいましょう」「Who is not here today ? 今日のお休みは誰ですか？」など常に日常生活の中で必要な動きや物事に合わせて英語を耳から入れる為、大人がするような「意味を頭の中で訳す」というプロセスをサニーサイドの子どもたちは持っていません。それぞれの場面や事物をイラストやフラッシュカードで見せながら教える必要はなく、英語を母国語とする子どもが身につけていくのと同じ方法で英語を理解していきます。

日本人教諭は「日本語」のみ 外国人教諭は「英語」のみ

1990年代には脳科学の分野が革新的な発展をとげました。その中でいわゆる「初期バイリンガル脳」の構造についてや、その育成に必要な育ちの環境についても多くの研究がなされましたが、その結果、バイリンガルな子どもが育ちやすいのは父親と母親がそれぞれに違う言語を話す場合だということがわかるようになりました。つまり、例えば母親だけが日本語と英語をおりませながら子どもに話しかけてもあまり効果が期待できないという研究結果です。私たちはそれらを踏まえ、日本人教諭は日本語のみで、外国人教諭は英語のみで子どもと関わることを基本にしています。

School Events

一年間の行事



School Uniform サニーサイドの制服

動きやすくてちょっとおしゃれな制服は子どもたちも大好きです。



冬服



夏服

Other Special Education

その他の特色教育

自然体験教育

自然の森・畑・川

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園には自然がいっぱい。春夏秋冬でたくさんの顔を見せてくれます。

春 新緑の中での鬼ごっこ。
こちよい風が子どもたちを包み込みます。

夏 どんなに暑くても自然の森に入ればそこは天然クーラー。
そして全身で自然を感じる川あそび。
裸足って気持ちいいね！

秋 木の実をあつめておまごこと。
ステキなケーキができるかな？

冬 落ち葉をあつめておふとんあそび。
ふかふか気持ちいいね！

また園外においては、れんげ畑に出かけて寝転んだり、ネックレスを作ったり、自然のおもしろさを肌で感じています。

秋のおいもほりに向けては、
年中生が春にいもの苗植えを行い、
年少生、年長生はりんご狩りに出かけ
ます。植物の成長、命の大切さを
体験しています。

自立する教育

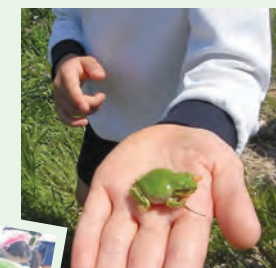
自分のことは自分でやる！

上ばき洗い

「身近なことで何か出来ること？」
年長生においては自分の上ばき洗いを行っています。
自分の上ばきを洗うことで、物を大切にしている気持ちや、
親へ感謝する気持ちを培っています。
「自分のことは自分で」
上ばき洗いを通して「自分でやれることはやってみよう」
という自立心を高めています。

お当番活動

給食当番、未就園児教室のお手伝い、そして運動会。一人一人が役割を持つことで
責任を持って取り組んでいます。やり遂げた後の子どもたちは、みんな自信に満ち
あふれ「キラキラ」と輝いています。



川開き



Parents' Voice

保護者インタビュー

西尾しゅんくん ぜんくんとお母さん

入園を考えたきっかけは、長男が3歳の時に言った「えいごやりたい!」でした。どういう思いでそう言ったのかはわかりませんが、少なくとも英語に興味があるんだということはわかりました。でも当時は、「英語には触れさせたいけど、こんなに小さいうちからやらせなくても…?」という思いもありました。そんな私たちの気持ちとは反面、息子はただ、ピッコリクラスで英語に触れることを楽しんでいるようでした。そんな姿を見て私たちが考えを改め、入園することに決めました。年長、年中になった今も、子どもたちは相変わらず英語を楽しんでいます。ネイティブの先生方とも仲良く話をしている姿をみて、この園での3年間で自分の世界を広げる経験の1つになっているんだと実感しています。

長澤あゆとくんとお母さん

幼少期に英語を習得するには約2,000時間の学習が必要だと知り、毎日英語に触れられる環境と、日本文化を大切にしたい教育に惹かれて入園を決めました。園では日常的に英語を使うため、自然とインプット・アウトプットの両方ができています。また、さまざまな国の先生やお友達との関わりを通して多様な文化や価値観に触れられることも、この園ならではの学びだと感じています。大阪・関西万博では海外の方に自ら英語で挨拶する様子を見て、親が驚くほど自然に英語が身についていることを実感しました。さらに、豊かな自然の中でのびのび遊べる環境や、楽しい行事が充実していることも魅力の一つです。先生方とても温かく接してくださるので、毎日安心して楽しく通えています。



金子まりかちゃんとお母さん

英語や外国人の先生と普段からしっかりと触れ合えるところに魅力を感じて、入園を決めました。卒園した長女も年中の次女も、制作活動やアクティビティで、英語を自然と吸収しています。外国人の先生方を通じて多様性を知り、多様性を知ることで、自分がお友達と違っていても良いのだと、自己肯定感が高まり、自信を持って行動できるようになったと感じます。また、先生方の多くが子供の名前を憶えてくださっていて、園全体で子供を見守ってくれていると感じられています。子供達が笑顔でのびのびと過ごしていて、我が家では最適な幼稚園を選べたと満足しています。



小宮山しゅんすけくんとお母さん

英語でコミュニケーションをとりたい気持ちはあるのに、苦手意識が先行して話せない自分がいました。子供達には、幼少期から英会話に自然に触れられる環境に身を置いて欲しいとの思いでこちらの園を選びました。多国籍な先生方がいらっしゃるの、語学だけでなく異国の文化にも触れることができ、子供の世界がぐんと広がったように感じます。街で出会った外国出身の方に臆せず英語で話しかけていたのには驚きました。あいさつや礼儀作法もしっかり教えてくださる一方、伸び伸びと自由に過ごせる雰囲気があるのも魅力です。運動会や学習発表会の練習にも熱心に取り組んでくださり、家でも練習がてら披露してくれます。上の子もこちらの園の卒園生で、その頃と変わらぬ先生方の温かさに、安心してお任せできる幼稚園だと感じています。

鶴見けいこちゃん ひできくんとお母さん

子ども達には幼い頃から英語に親しみ、国際交流に興味を持ってほしいという思いから、サニーサイドへの入園を決めました。毎日、自然と英語に触れる環境の中で、場面に応じて言語を使い分けて話す姿や、新しく覚えた国の話や歌を教えてくれることに、日々成長を感じています。年間を通して行事も充実しており、発表会や卒園式では日頃の成果を実感できます。中でもお誕生日会では、一人ひとりを盛大にお祝いして下さり、いつも感動しています。園長先生をはじめ、先生方の温かく寄り添う姿に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、多様な文化や価値観への理解を深め、どんな人とも仲良くなれる人へ成長してほしいと思います。



鈴木はるとくんとお母さん

外国人の先生と日本人の先生と一緒に子どもたちを見守ってくださるので、英語環境でも安心して子どもを預けることができます。遊びや活動を通して自然と英語に親しみ、家でも英語の歌を口ずさむようになりました。先生方は一人ひとりに愛情を持って接し、子どもの成長と一緒に喜んでくださいます。わが家には卒園した兄もいますが、園で身に付けた英語への親しみや積極性は、小学校でも生かされていると感じています。その姿を見て、下の子も安心して入園させることができました。季節の行事や体験活動も充実していて、「今日はこんなことをしたよ!」と嬉しそうに話してくれるのが親としての楽しみです。子どもが毎日笑顔で「幼稚園が楽しい!」話していることが、この園の魅力だと感じています。



Piccoli Class

未就園児教室 サニーサイド ピッコリクラス

早い時期から他のお友達と一緒に遊ぶ中で、幼稚園に上がってからもよりスムーズなスタートを切ることが出来ます。

幼稚園入園を控えられた2歳児のお子様を対象に、週一度のクラスを開催しています。サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園同様、日本人教諭と外国人講師によるチーム保育形式で行なっております。クラスは定員制とし、一人一人と十分なコミュニケーションがとれるよう配慮しています。

火曜日・金曜日

各コース 10:00~14:30

☆ 給食を食べます。

☆ 詳細は幼稚園までお問い合わせ下さい。



After School Class

課外レッスン ● 英語教室

外国人講師による少人数制の英語教室を行っております。幼稚園生にはもちろん、小学生を対象としたクラスも行なっています。また、サニーサイドの卒園生には、週2回コースも開設し、備わった英語力をさらに伸ばすことが出来るよう対応しております。

☆ 開設日・時間等、
詳細は幼稚園まで
お問い合わせ下さい。



サニーサイドに入ると英語がペラペラになる・・・???



岐阜市のサニーサイドインターナショナル幼稚園（現・サニーサイドインターナショナルスクール）に最初のサニーサイドクラスが出来て以来、この園に通わせる保護者の方の思いには色々なものがあることに気づきます。

サニーサイドはもともと普段の生活を外国人の先生と過ごすというごく自然体な「生活環境」ですが、中には「まだまだ英語の量が足りないから増やしてほしい」という方や、「私はもともと英語が話せるようになることをそんなに重要視していないから、そんな英語ばかり強調しないでほしい」という意見、実に様々です。

そして私たちは、色々な願いや期待を持つ保護者の方の思いと、現場で触れ合う子どもたちの姿を見つめながら、「この子どもたちにとって大切なことって何だろう」それだけを考えながら保育をしています。

サニーサイドと言えば、確かに「英語教育」というイメージがあると思いますが、本来は「英語環境」であって「英語教育」ではないなと感じています。そして、幼児期の子どもたちにとって、「環境」というものがどの位重要な意味を持つか、私たちはそれを日々目の当たりにしています。

小さな子どもと私たち大人の決定的な違いと言えば、「新しい環境への適応能力」であり、様々な情報や知識の「吸収力」であります。

つまり所、「英語教育」は子どもたちに必要ではありません。「英語環境」さえあれば、子どもたちは見る見るうちに理解力を身に付けていきます。

しかも、当然のことながら、小さな子どもたちの場合、意味を理解するプロセスは「言葉の翻訳」を介しません。当然初めは言われていることもわからないかも知れませんが、毎日生活の中で英語を聞いていると、朝の会の時に「Let's sing a song!」と聞けば、歌を歌うのだと理解しますし、給食の前に「Go wash your hands」と聞けば、手を洗いに行くのだなと理解できるようになります。生活の中で行動を伴いながら耳にするので、あえて言うなら「意味がわからなくても意味がわかる」ということです。

そしてこの能力こそ、生後から幼児期にかけて子どもがもっとも得意とすることであり、どの子にもある力なのです。

実は、日本語もこうして子どもたちは覚えていくのですね。「生活の中で自然に身につく」・・・これが言語です。

また、英語の発音の周波数の帯域は、日本語と違うと言われています。小さい頃から英語を聞きなれていないと、絶対音感同様、大人になっても自然と耳から入ってきません。これは「耳の壁」と言われることもあります。大きくなるにつれて、それが出来てしまうと、何か英語の音が耳から入ることに違和感があるというか、あまり心地よいと感じなくなります。そして、大人になってから、それを取り除こうとしても容易にそれが出来ない、そういうものだと言われています。

ところが、サニーサイドの子どもたちは、年少の時から毎日英語を聞いていますので、英語が耳から入ることに違和感を感じていません。外国人に囲まれていたとしても、耳から入ってくる音はまったく苦にならないのです。

「毎日」というのは本当に見過ごせません。小学校1年生で、たとえ知能が優秀で英語が大好きだという子どもがいても、もしその子が幼児期に英語を聞く環境にいなかったとしたら、実際、サニーサイドの子どもと同じ英語の理解力を身に付けるのは相当な時間と努力が必要になってきます。毎日の積み重ねで築いたもののすごさとはそういうものです。

「サニーサイドに入れたら、卒園する頃までには英語がペラペラに話せるのか」とたまに聞かれることがあります。もちろん子どもによってそれはまちまちで、限りなくバイリンガルになる子もいますし、ほとんど話そうとしない子どももいます。平均的な場合で言えば・・・「ペラペラ」ではないです。おそらく普段友達同士や、家族に対して話す言葉はほぼ100パーセント日本語でしょう。

でも、これは本当にどちらでもいいことだと考えています。つまり、話せる子は、たまたま非常に応用力に長けていたり、家で話す練習をそれとなくしていたりする人が多いのですが、普通の家庭と言えば、ほとんど日本語だけです。園で遊ぶ友達だって日本人ばかりなのですから、子どもだって、ただコミュニケーションをとるのに便利な日本語の方を使っているだけなのです。

それでは英語を話す力は身に付いていないのかと疑われるなら、英語を話す外国人の子どもの中で5日間生活させてみてください。「実はこんな力を秘めていたのか!」と驚かれることでしょう。

聞くことを「Input」話すことを「Output」と言いますが、人間が言葉を使えるようになるプロセスは産まれたときから常に「Input」が先です。赤ちゃんですら、生まれてから1年半以上「Input」を続け、その後やっと「Output」が出てくるのです。聞いたことを話せるようになるのであり、聞いたことがないものを話せるようになるわけがありません。

私たち大人が受けてきた英語教育の最大の間違いは、その最初の段階である「Input」がないまま、いきなり読み書きをさせられたことです。日本人が英語を話すことが苦手なのはそれに尽きると言えるでしょう。

その点、サニーサイドの子どもたちは十分に「Input」のプロセスを経験しています。環境さえ整えば、また時期がくればいつでも話せるようになるのです。そしてそこで重要なのは、「Input」のプロセスを途中で中断しないこと。小学校へ上がったたとえ週1回でもいいでしょう、言葉が出てくるまで「Input」し続けることが大切です。

サニーサイドインターナショナルスクール（岐阜）
渡辺 寿之

